

平成 26 年 8 月 5 日（火曜日）、市役所に
来庁した米林監督と栗市長



ごあいさつ

平成 28 年 2 月 2 日

今年の冬は暖冬ということでしたが、ここ数週間、何度かの寒波が押し寄せています。現在は来年度の予算策定ということもあり、何かと忙しい時期です。そんな中、大変うれしいニュースが入ってきました。ご存知のことかと思いますが、栗田出身の米林宏昌監督の「思い出のマーニー」が第 88 回アカデミー賞長編アニメーション賞にノミネートされました。

これはもう、うれしさを飛び越えて、すごいことです。長編アニメーション賞のノミネートは 5 作品ということですが、その中に入ったということ自体すばらしいことだと思います。世界の舞台で野々市出身の方が堂々と活躍されることは、本市にとっても誇らしいことです。「思い出のマーニー」が上映開始された直後、私も映画館で観てきました。絵の繊細さ、美しさでスクリーンの中に引き込まれるというより、絵そのものが自分に迫ってくるような不思議な感覚を得たことをいまだに覚えています。まさに「米林ワールド」の真骨頂とでもいうのでしょうか、米林監督自身がすでにそういう世界を確立されているのではないかと思います。

映画のなかでの鈍色の空の色は、北陸の少し憂鬱そうな空の色がイメージとしてつながり、主人公の「杏奈」が湖に素足を入れ歩く感覚は、子どもの頃、野々市の水を張った田んぼの中で、素足のまま、ぬかるんで遊んだ感覚だということを聞いています。ふるさと野々市で体感されたことが、「思い出のマーニー」のなかに盛り込まれているのかと思うと、胸が熱くなります。

私たちは総合計画や、昨年策定した創生総合戦略にあっても、「公共の経営」「市民協働のまちづくり」「野々市ブランドの確立」が定着し、確実に実践されることを目標としています。米林監督の活躍ということも、これらのしっかりした「まちづくり、人づくり」を進めている、その象徴ではないかと感じています。世界に名を馳せるということはもとより、市民の皆さんが野々市の中で誇りを持って活躍いただける、いろいろな意欲を高めていただくには行政側がどのような役割を担っていけばいいのか、それぞれの業務や分野のなかで考えていかなければならないことです。

アカデミー賞の結果発表は今月 29 日です。翌日 3 月 1 日から 3 月定例会の会期に入ります。執務室にてじっくりと提案説明を練り上げながら、良い結果を待ちたいと思います。